子ども会活動のしおり

Vol（volume）６
「ＫＹＴ（危険・予知・トレーニング）」

「ＫＹＴ（危険・予知・トレーニング）」の活用で安全に子ども会活動を進めよう

イラスト　シニアリーダー　伊楕　恵

目次

・安全と健康は子ども会活動の要 ……1p

・与えられる安全だけでは子どもは守れない …… 2p

・活動の一つとして「KYT」を実施しましょう …… 3p

・5～10分間の現場「KYT」 …… 4p

・子どものための「KYT」 …… 5p

安全安心は子ども会活動の要

子ども会活動に参加した子どもたちに楽しさを与えるため、安全確保は絶対不可欠です。
子どもたちは時として活動に夢中になると「ケガ」を伴う行動を取ってしまうことがあります。
万全の注意を払っていっても事故は起きることがありますが、万が一「ケガ」が発生してしまうと活動の楽しさが半減するだけでなく、子どもたちの日頃の生活にまで支障をきたすことにもなりかねません。育成者や指導者は活動の中に潜む危険や健康維持への細心の注意が必要です。

その対策として「ＫＹＴ」活動は大変有効と思われますので各活動実施の際は必ず「ＫＹＴ」を行いましょう。

Ｋ ＝ 危険
Ｙ ＝ 予知
Ｔ ＝ トレーニング

与える安全だけでは子どもは守れない

活動に参加してくる大勢の子どもたちの一挙手一投足に注意を怠らないことは至難の業です。
子どもたち自身に「安全に対する心構え」を持たせることがとても重要です。
安全＝与えられるもの
から
安全＝自ら確保するもの
を強く意識することで多くの危険を回避することができます。

子どもの安全確保は活動に立ち会っている育成者指導者ばかりに任せることなく、子ども自らが安全を意識して活動するよう、各家庭での注意や教育が不可欠です。

活動の一つとして「KYT」を実施しましょう

子ども会「ＫＹＴ」の方法として全子連が推奨している４ステップの研修を指導者・育成者は積極的に取り入れましょう。でも、子どもたちにはこの方法は少し難しいとも思われます。

１時間程度で４ステップを子どもたちに経験させるための方法をある指導者が考え、小学校での授業で実施したものを皆さんにも紹介します。

「ＫＹＴ」は、どう指導したかではなく子どもたちの中に安全意識を植え付けることに留意しましょう。

5～10分間の現場「KYT」

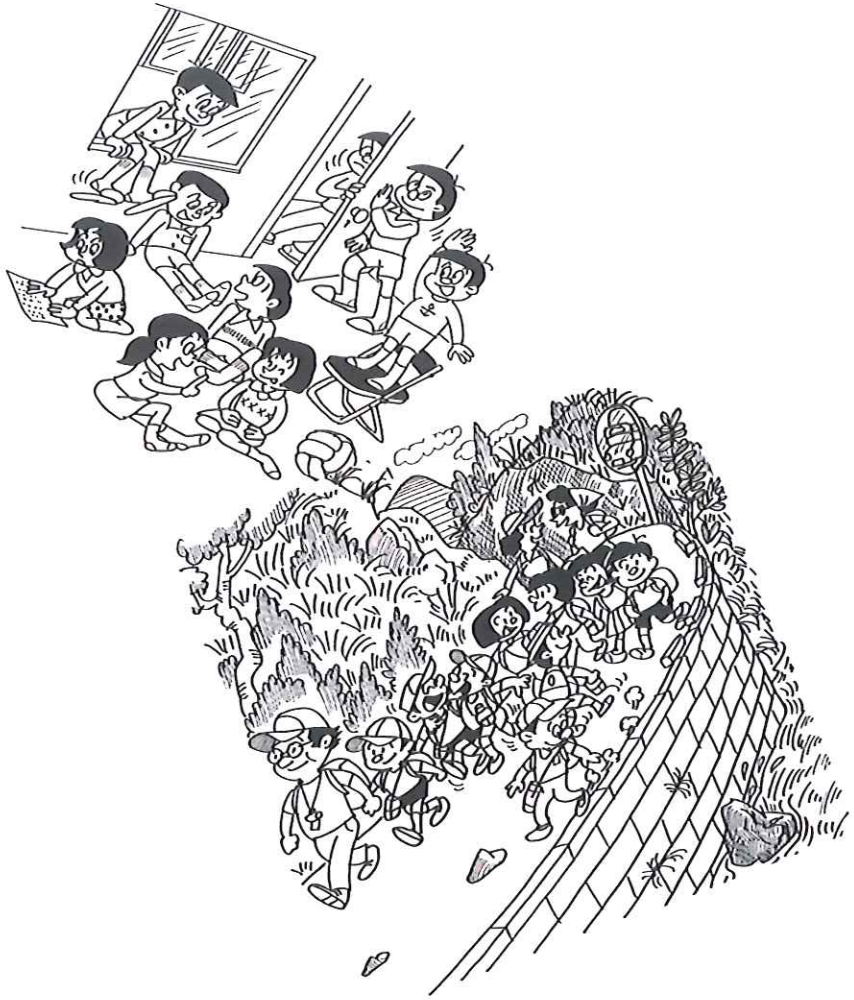
各活動を行う際、毎回正規の「ＫＹＴ」を行うのが理想ですが、子どもたちに安全行動を意識させるためには、長々と注意喚起を行うより５～１０分間の短い「ＫＹＴ」を実施することが有効です。

- 子どもたち自身に考えられる危険を挙げさせる。
- 「その危険を避けるためにどうするか」についても子どもたち自身に発表させる。
- 子どもたち全体の注意事項として意識させる。
- だらだらと長くするとかえって意識散漫を招くので注意する。

子どもたちとうまくやり取りすることが目的ではなく子どもたちに安全を意識させることが最重要であることを心がけましょう。

子どものための「KYT」

KYT ってなんだ？



当日は、こんなことを頭に入れながら研修をしたいと思います。

■体験不足、知識の不足
　イメージできない危険は、危険かどうかわからない。
　育ちによって経験の幅が違う。
　当たり前が当たり前ではない。⇒危険なことをやる前には教えなければならない。
　きっと出来るだろうは通用しない。
■危ないことは避けるようになった

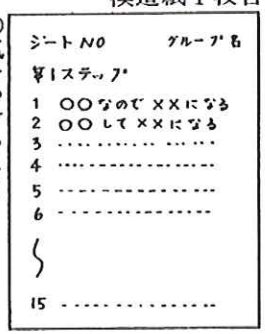
・今回の場面「　（当日決定）　」…各グループにＡ３のイラスト用紙を配布
（問）さあ、皆さんのお手元に〇〇〇のイラストが配られています。
（みんなに１枚ずつ配るより、グループで１枚が良い）
では、みなさんで危険な箇所をできるだけたくさん探してください。時間は５分間です。

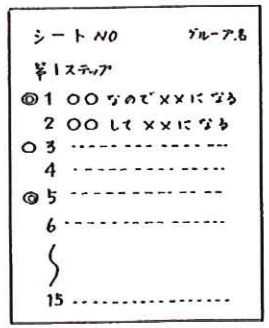
【第１ステップ】…「どんな危険がかくれているか」状況をつかむ　（１０分）
　（一枚目の模造紙とマジック黒、赤２本を配布する）
・リーダーと記録係を決める。（今回は、リーダーが記録係を兼務）
・リーダーがイラストシートについて、状況を説明する。
・イラストの危険箇所に〇印をつけ、模造紙にその危険の要因を箇条書きにする。
　「～して～になる」「～なので～になる」というように、具体的に書く。
　※「・・・危険だ」「・・・危ない」はダメ！
・リーダーは、全員に発言させる。必要に応じ、導き出るように促す。
・特に物の問題だけでなく、人の行動の危険発見を誘導うながすようにする。
　1　〇〇なので、××になる
　2　△△なので、□□になる
　↓
　10
●５分間の中でできたグループは、セーノ「イエーイ」と叫ぶ。
●５分経過後に、グループ毎に見つけた箇所数の競い合いをする。
　グループ毎に「〇〇個」と発表する。
　※それがないと作業になる。楽しくやるためには、みんなが一つになることが大事。

第１ステップ　　**第２ステップ**

模造紙１枚目

〇気をつけること
◎特に気をつけること





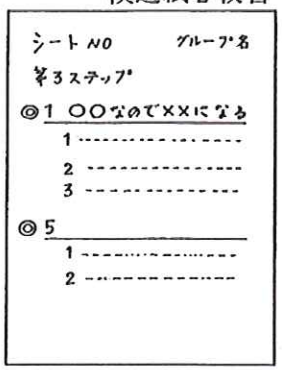
第２ステップ】…「これが危険のポイントだ」重点をしぼる　（１０分）
・リーダーは、書き出された項目を順に読み上げる。
・見つけた危険箇所の中で、重大事故の可能性のあるものに〇印をつける。
・さらに特に注意を要する箇所２つに◎印をつける
●終わったところは、第１ステップと同じ様に、セーノ「イエーイ」という。
●各グループにそれぞれ発表してもらうが、その際、次の要領で行う。
（リーダー）「危険なポイント」
（メンバー）「〇〇なので、××になる」
と全員が起立して、指差唱和。 ※声をしっかりと出させる。
※リーダー指差唱和について、説明をする。

第４ステップ終了後、１～４ステップを通して発表する。但し時間との兼ね合いで、省略することもある。

【第３ステップ】…「私ならこうする」対策を考える　（10分）
（２枚目の模造紙を配布する）
・特に注意を要する◎印をつけたものを、２つほど抜き出し記入する。
・◎印をつけた重要な危険要因として「予防したり防止したり」するのに」一人ひとりがどうしたらよいか考えさせる。
・「私ならこうしよう、こうすることが必要だ」と実行できる対策を出させる。
・一つの◎印に２～３の対策を考え、「グループとしてこうすべきだ」という共通の対策を考える。
１ 〇〇なので、××になる
①
②
２ △△なので、□□にな
①
②
●終わったら、これまでと同じように、全員でセーノ「イエーイ」という。

第３ステップ　　第４ステップ

模造紙２枚目



【第４ステップ】…「私たちはこうする」実行の目標を確認する　（１０分）
・グループとして、絶対しなければならないことに赤マジックでＸ印をつける。
（最重点項目を一つか二つにしぼってもらう）
⇒ これをまとめてスローガンとする。（自分たちの行動目標とする）
●できたグループは、声を合わせてセーノ「できた」という。
●最後に、グループ発表、

（リーダー）「私たちのスローガン」
（メンバー）「〇〇を△△して、××しよう！ よしっ！」と全員起立して、指差唱和

●全グループでのシェアリングの重要性
自分のグループだけでなく、他のグループの意見も聞ける。
●ただし、スローガンのできが重要ではなく、みんなで考えることが重要

《 イラストシートサンプル 》

▶危険なポイント
「人の行動」について
- すべり台の上から滑ってくる子どもと、下から上がってくる子どもとがぶつかってケガをする。
- すべり台の天辺に登って両手を上げている子どもが、上半身の重みで転落し大ケガをする。
- すべり台の階段を上がっている子どもが、段を踏みはずしてケガをする。
- 広場で自転車乗りの練習している子どもたちが、他人にぶつかったり、バランスを崩して転倒しケガをする。

「用具の危険」について
- すべり台の手すりが低いので子どもたちが転落してケガをする。

「場所の問題」について
- 砂場で遊んでいる小さな子たちにすべり台から滑り下りてきた子どもがぶつかる。

「子どもたちの心理状況」について
- すべり台の階段を上がっている子どもたちが、急いだり、押し合ったりしてバランスを崩して転落してケガをする。

「子どもの体力」について
- すべり台の横棒にぶら下がっている子どもが、落ちて頭や背中を打つ。